

六ヶ所村「尾駁の牧」歴史研究会が発足

頼朝愛馬のルーツ探る

平安時代の和歌や、鎌倉幕府を開いた源頼朝の愛馬の産地でその名が知られる「尾駁」をめぐる、六ヶ所村の馬産地としてのルーツを探ろうと、村民有志が村「尾駁の牧」歴史研究会を発足させた。17日、会長を務める村まちづくり協議会実行委員の相内知昭さん(四十九)らが村役場に古川健治村長を訪ね、活動の抱負を語った。

村民有志、歴史解明に意欲

研究会は、青森県文化財保護協会の栗村知弘副会長と伊藤一允常任理事が顧問を務め、村内の会社経営者、原子力関連研究で滞在中の東北大の研究者ら多彩な分野の計15人で構成する。5月26日に設立総会を開いた。



源頼朝の愛馬「生暖」の版画(八戸市博物館・図録「南部馬と人びとの暮らし」より、岩手県立博物館所蔵)

古川健治村長(右)に研究の抱負を語る相内知昭さん



尾駁は平安時代に和歌の歌枕に詠まれ、源頼朝の愛馬「生暖(いげづき)」が生まれた地ともされる。同村の地名にある尾駁との関連性を探り、馬にまつ古川村長は「歴史の

究明は)まちづくりの基本。頑張って研究を深めてほしい」と激励した。



デイリー東北新聞社

〒031-8601
八戸市城下一丁目3-12
電話0178(44)5111

振替口座02360-6-4212
©デイリー東北新聞社2008